

### 東京大学高等 教育開発センター 土持ゲーリー法一

はじめに  
最近、世界の大学ラン

キングが公表された。日本を代表する東京大学が、学生を受け入れることに昨年三九位からランキンを上げて三四位になったと有頂天になっているが、同じアジアのシンガポール国立大学(NU)は二位、南洋理工大學(NTU)は三位と日本を大きく引き離している。その結果、世界中の目が小国シンガポールに注視された。シンガポールには五つの国立大学がある。二〇一六年十月二十四日〜二十五日に、その中の二つの大学を視察して関係者にインタビューした。

日本人が長い間、「発展途上国」と考えていたシンガポールの大学が大きく変貌している。シンガポールは世界の高等教育界において「東洋のボストン」になることを目指し、二〇一八年までに留学生二〇万人を受け入れることを国策として導入することになっている。人口四〇〇万人ほどの小国が二〇万人の留学

生を受け入れることは、日本の人口に換算すれば、実に六〇〇万人の留本を代表する東京大学が、学生を受け入れることに昨年三九位からランキンを上げて三四位になったと有頂天になっているが、同じアジアのシンガポール国立大学(NU)は二位、南洋理工大學(NTU)は三位と日本を大きく引き離している。その結果、世界中の目が小国シンガポールに注視された。シンガポールには五つの国立大学がある。二〇一六年十月二十四日〜二十五日に、その中の二つの大学を視察して関係者にインタビューした。

## 社会に通用するアクティブラーニング

シンガポール  
の大学

### シンガポール マネジメント大学

SMU-Xの「X」は、大学の「高大接続」に重点が置かれ、肝心な「大社連携」、すなわち、大学と社会のつながりが十分に考慮されている。

アクティブラーニングを「学習」するものとの考えが強い。社会に出た後にアクティブラーニングが十分に発揮されないように思われる。何のためのアクティブラーニングなのか、疑問を抱かずにはいられない。社会に通用するアクティブラーニングが強く求められる所以である。現在、大学は「高大接続」に重点が置かれ、肝心な「大社連携」、すなわち、大学と社会のつながりが十分に考慮されている。

MINDSET FOR COLLABORATION  
CURRICULUM BASED ON EXPERIENTIAL LEARNING  
SPACES FOR GROUPWORK

SMU-Xの「X」とは、大学の「高大接続」に重点が置かれ、肝心な「大社連携」、すなわち、大学と社会のつながりが十分に考慮されている。SMU-Xの「X」とは、大学の「高大接続」に重点が置かれ、肝心な「大社連携」、すなわち、大学と社会のつながりが十分に考慮されている。

### 帝京大学高等 教育開発センター 土持ゲリー法

デューク・シンガポールは大学院に相当する。ル国立大学医学部(Duke University School of Medicine)は名称の通り、アメリカのノースカロライナ州の名門デューク大学医学部とシンガポール国立大学がドッキングして新たに設立された。この大学が世界的に注目されるようになったのは、医学部で採択されている教授法にある。日本の医学部と同様に、ほとんどの医学部はPBL(問題中心型学習)を採用して講義のみならず、臨床も行っている。ところが、アメリカでは、最近、PBLに代わってTBL(チーム中心型学習)という教授法を導入して注目されている。世界的にTBLを導入して世界を驚かせたのがDuke University School of Medicineである。

(詳細は、帝京大学高等教育開発センターウェブサイトの沖永佳史学長とフィンク博士の対談) NHK番組のシンガポール版 Duke University School of Medicine 医学部はアメリカをモデルにして

## 社会に通用するアクティブラーニング

### シンガポールの大学

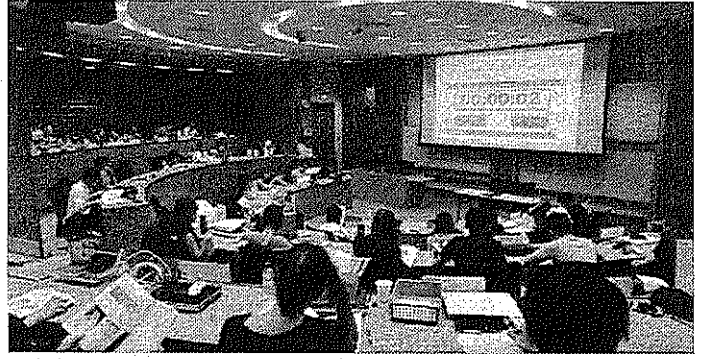
## デューク・シンガポール国立大学医学部

学生に尋ねたら、「七時間」とのことであった。このエリート医学生が卒業後、どのようなポストを求めているか尋ねたところ、国の発展に貢献したいとか、へき地医療に携わりたいなどの「優等生」の回答が返ってきた。どの学生も目が輝き、将来の夢に向かって邁進していた。医学生と一緒に昼食をしながら、先述のとおり、最大の

学生に尋ねたら、「七時間」とのことであった。このエリート医学生が卒業後、どのようなポストを求めているか尋ねたところ、国の発展に貢献したいとか、へき地医療に携わりたいなどの「優等生」の回答が返ってきた。どの学生も目が輝き、将来の夢に向かって邁進していた。医学生と一緒に昼食をしながら、先述のとおり、最大の

大学は「実験の場」であることには重要である。試験は厳しいほど良い。なぜなら、易しいと十分な学習をしないとも良い成績が取れるので一所懸命に勉強をしない。教室外学習が成績に反映されない。したがって、PBLにせよ、TBLにせよ、十分に課題と教材を与えて失敗しながら学習させることも重要である。余談になるが、『朝日新聞』電子版(二〇一六年十二月二十一日)は「ノベル賞の大隅さん、失ち、学生の成績の平均点が六五・七五点となる。敗の大切さ訴え 科技相が六五・七五点となる。うな厳しいものを想定している。すべての学生が九五点あるいは一〇〇点を取るようでは、チームで何も討論することがない。なぜなら、チームに加点する方法を見いだせなかったからである。したがって、確認試験も形式的なものに終始した。学生からの教室外学習が正当に評価されないと、成績不良に陥り、単位を修得できなくなる。

この経験を踏まえて、帰国後、教室外学習および確認試験を大幅に改善を可視化するという点でも効果的な方法である。シンガポールも日本もともに資源の乏しい教育立国である。シンガポールには日本にないものがある。それは多民族国家がもたらす多様性である。それが新たな発想につながる。冒頭で述べたように、二〇一八年までに留学生二〇万人の受け入れを国策としている。さらに、少数精鋭の五つの国立大学のために国の管理が行き届いている。可欠である。幸い、帝京大学八王子キャンパスのソラティオスクエアには、ケンブリッジ大学との共同施設もある。日本では「落ちこぼれ」が社会問題化しているが、シンガポールでは、徹底した厳しい試験で学生を振り落としていないように、社会で活躍できる人材を優遇する道が開かれている。(おわり)



出典 <https://www.youtube.com/watch?v=BIMPLYGdBLg>